

豊洲開場半年 落ち込む取引

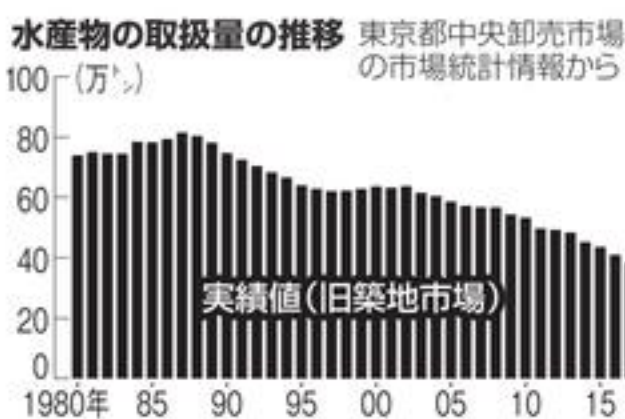
国内最大級の築地市場（東京都中央区）を引き継いだ豊洲市場（江東区）が開場して11日で半年がたった。約5700億円かけ、新しい「日本の台所」をめざしたが、取扱量は築地時代より落ち込んでいる。



加工場で切り身を輸出用に梱包（こんぼう）する水産仲卸業者＝4日午前、豊洲市場

小口客激減 輸出に注力

「築地から豊洲に移り、2割くらい売り上げが減った」。40・7の敷地に、5階建ての水産仲卸売場棟や、青果棟などが立ち並ぶ豊洲市場。鮮魚を手広く扱う水産仲卸「て良」の井上



取扱量「1.6倍」計画

武久さん(81)はぼやく。スーパーやチェーン店などに大衆魚を1日何十⁺と納めており、大口顧客との取引は減っていない。銀座が徒歩圏だった築地から離れ、「小料理屋のような小口の現金客が激減した」と言う。

「築地から豊洲に移り、2割くらい売り上げが減った」。40・7の敷地に、5階建ての水産仲卸売場棟や、青果棟などが立ち並ぶ豊洲市場。鮮魚を手広く扱う水産仲卸「て良」の井上

月の豊洲の水産物取扱量は、依然国内最大ではあるものの、前年同月比2・4%減。かき入れ時の12月も同10・1%減で、今年1月も同4・4%減、2月も同7・2%減と低迷が続く。築地時代も消費者の魚離れ、海外からの輸入や産直販売などが広がり、取扱量は減少が続いていた。

周辺の中卸市場では、大田や横浜も前年割れが続くが、足立や川崎のように前年と同水準を保つ市場もある。豊洲の取扱量減少の原因について、都の担当者は「現時点で特定は難しい」と話す。

一方で、業者や利用客の不満が強いのが駐車場だ。東京都内のすし店主(59)は、豊洲市場内で定期契約の駐車場を探したが、料金が築地時代の4倍以上になると聞き、諦めた。「スー

パーも客の駐車場代はタダなのに」

30分300円の時間貸し駐車場は、水産仲卸売場棟に約50台分しかない。都は隣接する集客施設「千客万来施設」の予定地を暫定的に開放し、約250台を無料で駐車させていたが、この場所では集客イベントを開催することなどもあり4月から使えなくなった。仲卸業者の一人は「駐車料金が高く、駐車場も不便なら、別の市場に客が流れてしまうかも」と危惧する。

加工場整備に投資

そうした状況の中、都や業界が力を注ぐのがアジアや米国への輸出だ。豊洲は、衛生管理の向上で輸出先の衛生基準をクリアしやすくなったためだ。水産仲卸業者「亀和商店」は場内の加工施設で、

仕入れたばかりのヒラメやカンパチを三枚におろし、切り身を真空パックに詰めている。航空便で香港やシンガポールへ。約8千万円を投資して加工場を整備した和田一彦社長(56)は「場内で買い付けから加工、輸出まで完結できる」と話す。

日本通運や「東京魚市場卸協同組合」によると、輸出を手がける豊洲の水産仲卸業者は、開場からの半年で1・2割増え、100社を超えた。海外の日本食レストランの増加も追い風になっているという。市場に詳しい東京聖栄大学の藤島廣二客員教授は「加工や海外需要だけでなく、他市場との連携、消費者へのネット販売など、できることはまだあるはず」と指摘する。

(西村奈緒美、坂井規泰)